

最優秀賞

中学生部門〈手術・病気〉

箕面市立第六中学校2年

宮野 稚那

## 障害と戦う

私は、障害を持っている。『広汎性発達障害』。どういう障害か自分では、分かっていない。説明されてもたぶん私の頭だ。すぐに忘れてしまうか、忘れはしながままったく理解はできないと思う。

私に障害があると分かったのは小二の頃だったらしい。学校の先生や、周りの人から私になんか変わっていると言われた母は、すぐに病院へ。診断を受けたところ、広汎性発達障害という障害が発覚。そして私は小二の後半から『学習室』という場所に入る事になった。三・四年生の頃、私はなんらかの理由で「障害を持つ人は嫌われる」と思い、自殺をはかろうとした事がある。脈のところをねらって噛みすぐく痛かった事を覚えている。この事は、現在の年の時まで言ったことはない。「腕を噛んだ」とは言ったが理由は言っていない。その事が母に伝わった日なにもなかった事のようにいつもみたいに接してくれた。少し嬉しかった。

私は現在、放課後デイサービスという障害を持った子がいる学童のような所に週に一回、長期休みは日曜日、月曜日以外のほぼ毎日通っている。そこにはダウン症の子や知的障害・自閉症の子、私と同類発達障害の子など色んな障害を持つ子がたくさんいる。そこでは障害の子達が、将来大人になっても困らないように色々な事を行っているところです。その子達を見ていると「障害を持っている人でも自分で何をやるか、何を行うか考えて色んな事が出来る。ちゃんと頑張って生きているんだ」と思う。

私は障害を持っている。どういう障害か自分では分かっていない。でも分からなくて良いと思う。だって、今この瞬間を楽しく生きているのだから。私のこの障害は治るか治らないか分からない。でも、私は治らなくてもいい。これは私の一つのポイントであり一つの特徴だから。そう思いながら私は今、私は一分一秒大切に生きている。